

## 「ケンちゃんの勇気」

(H30.1.9 3学期始業式・校長講話より)

勉強、部活、家族団欒<sup>だんらん</sup>。それぞれに有意義な冬休みを送り、新年を迎えたと思います。特に3年生。受験を目前に控えた諸君は、まさに全力傾注の年末年始だったことでしょう。人間はイメージが行動を左右します。一流のアスリートは、試合前に勝ちパターンしかイメージしないと聞きますが、受験生も同じ。絶対受かると信じて臨めば、必ず道は開ける。信じていきましょう。

さて今日は、20年以上、自分の心の中に残っている言葉についてお話しします。

私は30代のはじめ、ある中山間地域の高校に単身赴任していました。町内の居酒屋に通ううち、3人の地元男性と友達になりました。歳は40代半ば、高校時代は農業科の同級生だったという3人です。「まさる」「タダカツ」「ケンちゃん」と呼び合っておられました。

まさるさんはその居酒屋のご主人。いかにも商売人らしく愛想良い人でした。タダカツさんは町議会議員。身長185センチの堂々たる体躯で、声も大きく豪快。反対に、ケンちゃんは小柄で色白。あまりしゃべらず、いつもニコニコ。二人にしょっちゅういじられていましたが、ニコニコしておられました。

実は、今なお心に残る言葉というのは、このケンちゃんの言葉なのです。

2月のある日、ケンちゃんが高校に来ていました。スーツを着て、ネクタイをして。「どうしたんですか？ そんな改まった格好して。」と尋ねると、「3年生に話をしてくれと言われて…」。当日は3年生登校日。その日計画されていた講演会の講師がなんと、ケンちゃんだったのです。実はケンちゃん、地域で最も大きな設計事務所の社長さんなのでした。そのお話です。

「自分は普通科には入れず、農業科に入りました。だいたい頭が悪いもんだから、昔からたとえばこういうことやると、こんな危ない目に遭うというのが、あんまり見えない。高校を卒業して就職したんですが、あとさき考えず20代でさっさと独立して、2回会社を作って、2回つぶれました。2回目の倒産では借金がウン千万残りました。でも、性懲りもなくまた会社を作って……。それが今の会社です。3回目はどうにかうまくいきました。

頭の良い普通科の同級生は皆、先の危うさが見えるから、先が読めてしまうから、事業には手を出しません。で、役場や銀行など安定した職場に勤めている。一方、農業科の連中は頭悪いもんだから、事業に手を出して、でも実は結構成功しているんです。

居酒屋のまさるは、役場の連中の倍稼いでいます。僕もたぶん3倍ぐらい。議員のタダカツは手広く事業をやっていて、町内一の高額所得者です。ちなみに町内の高額所得者、実はほとんど農業科の卒業生なんです。だから、頭悪くても大丈夫。いや、頭悪いからこそエイヤツと思いつたことができるんです。自分あんまり頭の出来が良くないと思っている生徒さん、それは武器なんです。ですから、がんばって下さい。」

ざっとこんな趣旨のお話でした。何だか、がつんと頭を叩かれたような気がしました。

やる前からやった後の失敗を予測して、躊躇して、結局何もしないとか。やる前から、逃げの姿勢に入っているとか。情けないことに自分自身、思い当たることが沢山ありました。皆さんはどうでしょう。たとえば部活の大会の前、テストの前、受験の前。戦いに臨む前から、実は勝てそうにないと思っていたり、負けたときの言い訳をしているようなことはありませんか？

少なくとも戦いが終わるまでは、起こるかも知れない失敗についてぐだぐだ言わない。腹を据える。覚悟を決める。成功の秘訣は頭の良し悪しではない。覚悟を決めて行動することなのだ、ということですね。ケンちゃんには、その覚悟と行動力があつたわけです。一見頼りなさそうなケンちゃん、実は、とてもたくましい人でした。頭が悪いという自評は、明らかに謙遜。とても「頭の良い」人でした。

先を読むことは大切です。でも、読みすぎると何も出来なくなってしまう。

皆さん、事を起こすときにはぜひ「けんちゃんの勇気」を持ちましょう。失敗を先読みせず、腹を据えて行動しましょう。まずは「プチ改革」から、お願いします。

今年1年、皆さんがたくましい自分を創り出す年となるよう期待して、年頭のお話とします。